

Before

ひとり暮らしのAさんの家具をCheck!

安全な
室内で
安心!

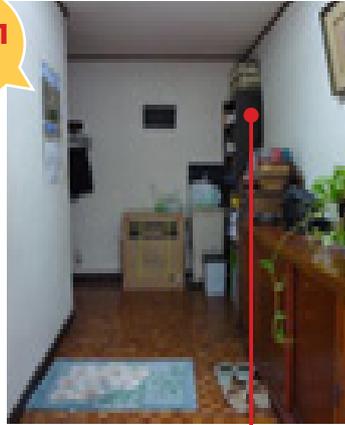


福和's
Check 1
玄関

本棚が倒れると
避難経路が塞がれます。
玄関にある花瓶等は
割れると危険です。

福和's
Check 2
寝室

就寝中に地震がおこると
逃げられません。
棚の上の荷物も危険!



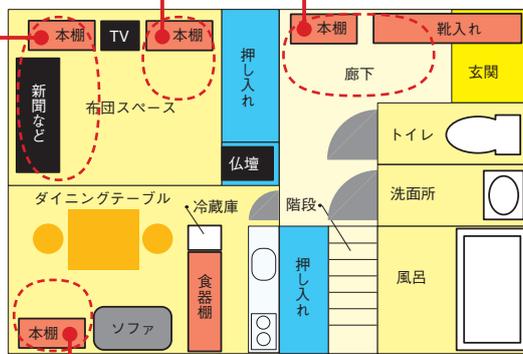
棚が倒れると
ガラスが飛びちって
負傷の原因と
なります。

福和's
Check 3
寝室



福和's
Check 4
居間

地震で揺れると
棚の中身が全て
飛び出します。



Aさん宅の
1階の間取り図

築25年の一戸建てにひとり暮らしのAさん。家族4人で暮らしてきた空間は、生活に便利な家電や家具でいっぱい。

家具の固定や配置の見直しで「安全空間」を！ 家具転倒防止のビフォーアフター

地震による負傷原因の3割〜5割は、家具類の転倒や落下によるものです。ここでは、家具の固定がされていないお宅に伺い、地震工学が専門の福和伸夫先生に、どのようにすればよいかチェックしていただきました。

地震による負傷の多くは、家具類の転倒・落下が原因です。転倒・落下した家具につまずいたり、家具が倒れたときに割れた食器やガラスなどが、多くの負傷原因となり、大変危険です。

地震の際、家具は必ず倒れるものとして考え、災害に備えることが必要です。まず、5つの事柄を実践しましょう。

- ① 家具の倒れる向きを考えて配置する
- ② 家具部屋をつくる
- ③ 作りつけの家具を使う
- ④ 寝室には家具を置かない
- ⑤ 家具を置く場合には固定する。

また、家具固定の際には、壁や天井、床などに対し、複数の固定器具を併用するのが理想的です。家具同士の連結も効果があります。

地震で負傷しないためには、事前

名古屋大学大学院教授
福和伸夫

ふくわ・のぶお ● 1981年に名古屋大学大学院修了後、清水建設株式会社に入社。91年から名古屋大学に異動。専門分野は建築耐震工学、地震工学、地域防災。

After

安全空間を確保するにはどうしたらいいの?

Point 2

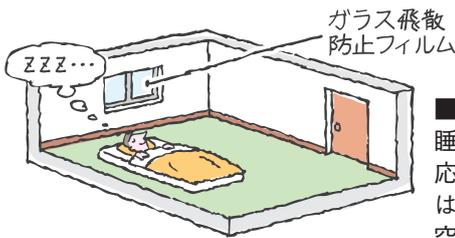
冷蔵庫やピアノが凶器に 「重い家電や家具も動く!」



■冷蔵庫の固定
重量物も、地震では簡単に動くため、必ず固定。キャスターにはストッパーを付ける。

Point 3

家庭に安全空間を 「寝室に家具を置かない!」



■寝室は安全空間に
睡眠時は地震への対応が鈍るため、寝室には家具を置かず「安全空間」にする。

Point 4

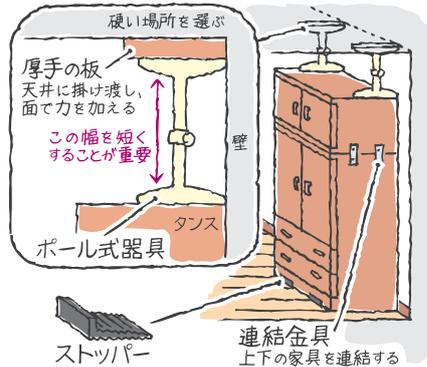
必ず通れる避難経路を確保する 「廊下に避難の妨げとなる物を置かない!」



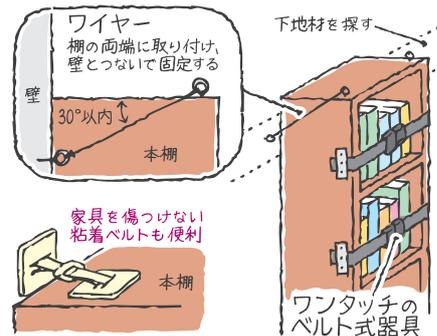
■避難経路の確保
被災時でも廊下や玄関が通れるように工夫し、非常持ち出し袋を準備しておく。

Point 1

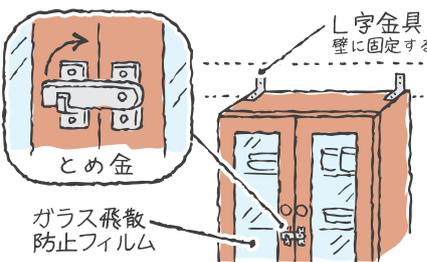
家具は壁に固定 「家具は必ず倒れる!」



■タンスの固定
ポール式器具は家具の奥につける。また、左右の揺れで外れやすいので注意。上部だけでなく下部もストッパー等で固定。上下に分かれた家具は連結する。ポール式器具は天井や家具の硬い所に付ける。



■本棚の固定
揺れても中の本が飛び出さないよう、本棚の端の硬い部分にヒモやベルトのようなものを取り付ける。



■食器棚の固定
壁の中の硬い所、下地材のあるところを探し、金具、L字金具などで固定する。さらに観音扉が開かないようストッパーを付ける。

震災時どっちが安全!?

1階 or 2階

耐震性のある家なら1階。耐震性のない家なら2階にいるのが安心です。ただし、2階の方が、1階よりよく揺れるので、家具固定の必要があります。地震だけではなく、災害時には2階だと逃げにくいので注意が必要です。では、屋内と屋外では、どちらが安全なのでしょう。震度7で家が倒壊して生き残った方の多くは屋外に逃げて助かっていますが、揺れがあまり強くない場合や、建物の耐震性が高く、家具固定がされているのであれば、室内にいた方が落下物の危険がなく安心です。

の備えが必要です。もし、緊急地震速報が受信できる環境があったとしても、それに対する備えがなければ単なる死亡宣告になってしまいます。まずはできる部分からはじめ、家庭内に「安全空間」をつくることで、被災時や被災後に、安心して暮らせるのです。